

四條畷鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務
報告書

平成30年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1.	調査の目的	1
2.	調査区域及び調査対象	1
3.	調査内容	1
4.	調査地の概要及び環境	2
5.	調査方法	3
6.	調査地区位置図	4
7.	調査結果	5
	7-1 現地調査結果	5
	7-2 文献調査結果	13
8.	まとめ	19
9.	参考文献	22

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、四條畷鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

四條畷鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。四條畷鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。

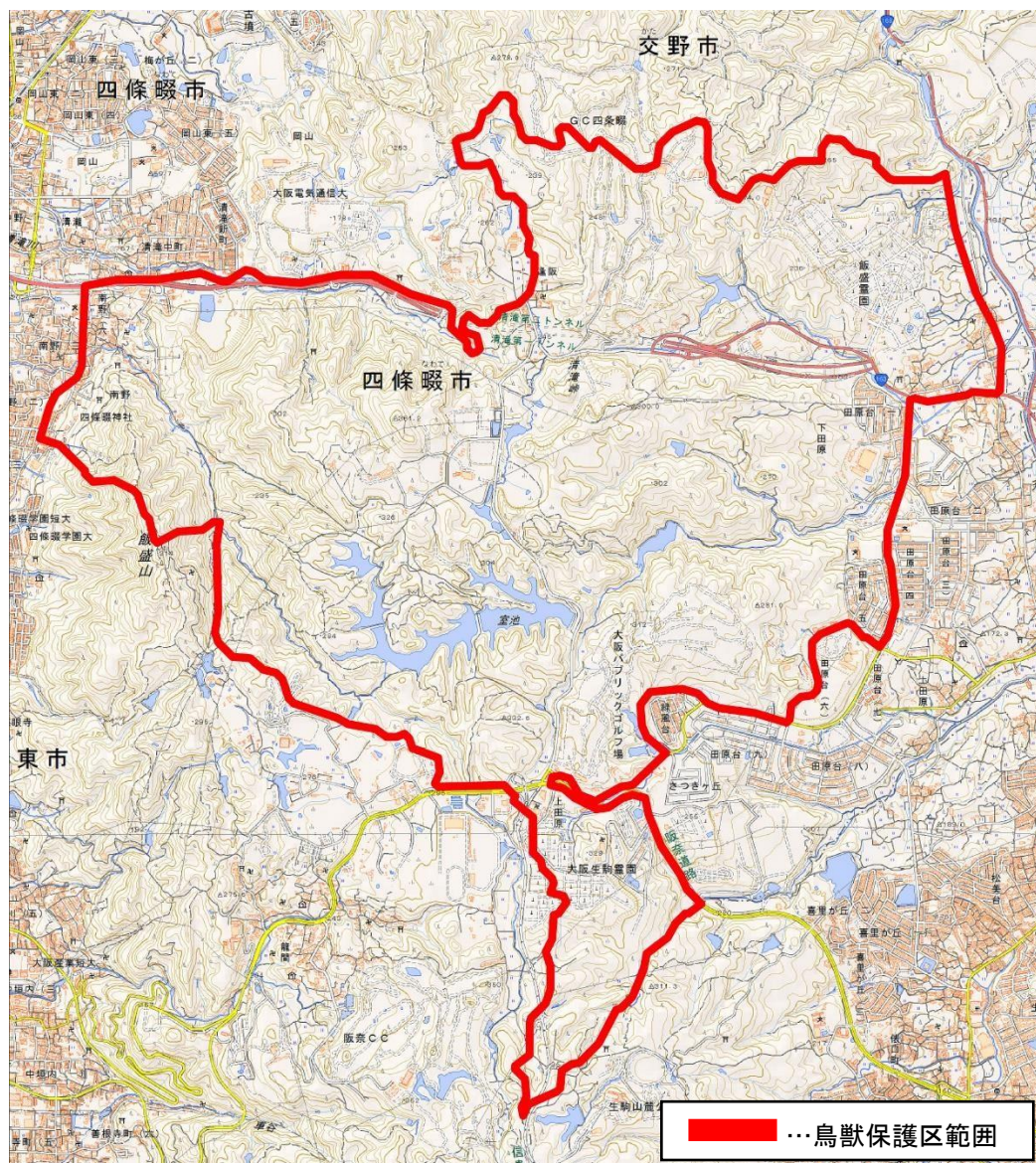


図 2-1 四條畷鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

四條畷鳥獣保護区がある四條畷市は平成 22 年の土地利用の現状では、山林と原野・牧野が併せて約 41%と最も多く、市街地が 28%、普通緑地が約 10%、農地が約 7%という構成である。市域の約 3 分の 2 を北生駒山地が占めており、そのうち 722ha は、自然公園（金剛生駒紀泉国定公園）に指定されている。

当該地区は、奈良県と境を接する大阪府の東部にある四條畷市の中・東部、生駒山系の北部に位置し、東側は生駒山地主稜線を挟んで奈良県と接する山林地帯、西側には飯盛山がそびえ、北には河内と大和を繋ぐ清滝街道が通っている。当該地区を含む四條畷市は、全域が銃器を対象とする特定猟具使用禁止区域(面積約 1,874ha)に指定されている。本地域は、生駒山系沿い北側に交野鳥獣保護区(面積約 1,030ha)、南側に生駒山鳥獣保護区(面積約 2,100ha)に挟まれており、鳥獣保護区として一体的に保護を図る上で重要な地域となっている。

また、当該地区の東部を除く範囲は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、自然環境の保全上も重要な地域となっている。

調査範囲内はコナラ、クヌギ等の落葉広葉樹林を主体とした森林が複雑に入り組んだ山地地形と室池によって形成される水辺環境が複合的に存在する環境である。生駒山地主稜線の西に多くの谷が形成されており、奈良朝時代にこれらの谷をせき止めて築造された新池、古池、中ヶ池、砂溜池の 4 池を総称したものが室池であり、野生鳥獣の生息地として重要な拠点となっている。

室池周辺は、金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、周辺には野外活動の拠点として大阪府民の森緑の文化園むろいけ園地、四條畷市立野外活動センター、寝屋川市野外活動センターの 3 つの公共施設が設置され近隣地域の住民や府民に広く利用されている。

大阪府民の森緑の文化園むろいけ園地は大阪府により整備されて、木道、遊歩道などのハイキングコースが整備され自然観察、スポーツ、リクリエーション、セミナー等に利用されている。宿泊施設もあり、これらが一体となり自然リクリエーションゾーンとして広く府民に開放されている。園地の施設「森の工作館」では自然体験イベントなどが催され、水辺自然園、森の宝島などの施設をあわせた平成 29 年度の利用者は 30 万人を越えている。

また、四條畷市立野外活動センターは、年間約 9 千人の施設利用がある。キャンプ活動をはじめ、工作、自然観察、天体観測などのイベントが開催され、施設のキャンプ場を中心に東側に隣接する四條畷市ふれあいの森や堂尾池ビオトープを利用している。さらに、寝屋川市野外活動センターは、年間約 2 万人の施設利用があり、昆虫観察などの自然観察や自然工作、林業体験(しいたけづくり、きこり体験)、キャンプなどのイベントが開催され、施設を中心に北東側の山林や寒谷池を利用している。

そのほかに緑の文化園では、日本野鳥の会大阪支部の定例探鳥会が月 1 回の頻度で開催され、毎回 30 名程度の参加者を得ている。

参考：「四條畷市環境基本計画」（四條畷市都市整備部生活環境課, 2017 年 3 月）参考：「なわての環境 ー平成 28 年版ー」（四條畷市都市整備部生活環境課, 2017 年 3 月）参考：「大阪府指定四條畷鳥獣保護区 指定計画書」（大阪府, 2009 年 6 月）参考：「事業報告書」（一般財団法人大阪府みどり公社, 2018 年 3 月 31 日）

参考：「平成 25 年度 特定非営利法人ナック事業報告書」（特定非営利法人ナック, 2013 年度）

5. 調査方法

調査は、表 5-1 に示す文献による文献調査及び現地調査により実施した。

現地調査は、調査ルートを約 2km/h の速度で歩くラインセンサス法を用いて行い、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲に出現する鳥獣を記録した。さらに、保護区内の農耕地、市街地、ため池など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を補うため、保護区内において任意調査を行った。

調査時期は、秋季 1 回、冬季 1 回とした。図 6-1 に調査ルートを示す。

また、確認された種から、調査毎に重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 による。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016 地域別鳥類リスト	2017 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	室池ガンカモ類調査	2008 年～2018 年・大阪府
文献 3	室池バンディング記録	2008 年～2017 年・関優氏私信
文献 4	室池探鳥会観察記録	2008 年～2018 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 5	生駒山系北部におけるフクロウ <i>Strix uralensis</i> の繁殖状況	2015 年・谷川智一、上久保真里、村上亮、古園由香、熊代直生

表 5-2 選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2017（環境省 RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 RL）

6. 調査地区位置図

枚方鳥獣保護区範囲と現地調査ルートを図 6-1 に示す。

図 6-1 調査ルート位置図



7. 調査結果

7-1 現地調査結果

1) 鳥類

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
秋季	平成 30 年 10 月 8 日	晴れ	R1	7:17～ 8:48
			R2	7:00～ 8:20
			任意	7:00～11:00
冬季	平成 31 年 1 月 14 日	晴れ	R1	7:45～ 9:10
			R2	7:27～ 9:18
			任意	7:45～13:07

② 鳥類確認種

現地調査の結果、11 目 25 科 48 種の野鳥を確認した。確認種を表 7-2、調査回・ルート毎の個体数を表 7-3 に示す。

各調査回における確認種数は、秋季が 28 種、冬季が 42 種であり、調査回ごとの個体数合計は、秋季が 165 羽、冬季が 250 羽であった。

分類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年，日本鳥学会）に従った。なお、今回の調査で確認されたコジュケイ、ソウシチョウは外来種であり、第 7 版未掲載種であるが、参考として鳥類確認種表に掲載した。

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	秋	冬	区分
1	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	外来種
2	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		○	冬鳥
3			<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ	○	○	冬鳥
4			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ		○	冬鳥
5			<i>Anas crecca</i>	コガモ	○		冬鳥
6			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ		○	冬鳥
7			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ	○	○	冬鳥
8			カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○
9	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥
10	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	留鳥
11	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	留鳥
12	ツル	クイナ	<i>Fulica atra</i>	オオバン		○	留鳥
13	タカ	タカ	<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		○	留鳥
14			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	冬鳥
15	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ		○	留鳥
16	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥
17			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	留鳥
18	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		留鳥
19		カラス	<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	留鳥
20			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
21		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥
22			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
23		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウンチョウ	○	○	外来種
24		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
25		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
26		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥
27		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○		旅鳥
28	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥	
29	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	留鳥	
30	ヒタキ	<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	冬鳥	
31		<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	冬鳥	
32		<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	冬鳥	
33		<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ		○	冬鳥	
34		<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ	○		旅鳥	
35		<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		旅鳥(一部夏鳥)	
36		<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥	
37		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ		○	留鳥
38	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	留鳥	
39		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ		○	留鳥	
40	アトリ	<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ		○	留鳥	
41		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		○	冬鳥	
42		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	冬鳥	
43		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	冬鳥	
44		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ		○	冬鳥	
45		<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	留鳥	
46		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	留鳥
47			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	冬鳥
48	<i>Emberiza variabilis</i>		クロジ		○	冬鳥	
合計	11 目	25 科	48 種		28 種	42 種	一

表 7-3 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目	科	学名	種名	秋季		冬季	
					ルート1	ルート2	ルート1	ルート2
1	カモ	カモ	<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ				4
2	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ		1		
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	1	1		1
4	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ				1
5	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		1		
6	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	5	2	7	3
7	キツツキ	キツツキ	<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	3		2	2
8	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		1		
9	スズメ	カラス	<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス		2		1
10	スズメ	カラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	1		1	
11	スズメ	シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ		1	7	3
12	スズメ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	6	6	8	5
13	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	18		5	8
14	スズメ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	25	42	18	27
15	スズメ	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	5	2	2	3
16	スズメ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ		3	16	3
17	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	5			
18	スズメ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	27	3	18	13
19	スズメ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ				1
20	スズメ	ヒタキ	<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ			7	8
21	スズメ	ヒタキ	<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ				1
22	スズメ	ヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ			1	2
23	スズメ	ヒタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ				1
24	スズメ	ヒタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	2			
25	スズメ	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	1	1		
26	スズメ	セキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ				1
27	スズメ	アトリ	<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ			10	
28	スズメ	アトリ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ			11	
29	スズメ	アトリ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ			7	3
30	スズメ	アトリ	<i>Eophona personata</i>	イカル				4
31	スズメ	ホオジロ	<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ			16	8
32	スズメ	ホオジロ	<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ			4	7
ルート個体数合計					99羽	66羽	140羽	110羽
調査回個体数合計					165羽		250羽	

③ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目4科5種であった確認された重要種を表7-4、確認位置を図7-1に示す。

今回の調査で、環境省レッドリスト記載種が2種、大阪府レッドリスト記載種が3種確認された。レッドリスト記載種5種の内、ツミ、ノスリ、オオムシクイ、コサメビタキの4種が山野の鳥である。オシドリは主に冬期に湖沼に渡来する水鳥である。

表 7-4 現地調査 確認された重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省 R L	大阪府 R L
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	DD	
2	タカ	タカ	<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		VU
3			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		NT
4	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	DD	
5		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		VU
合計	3目	4科	5種		2種	3種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

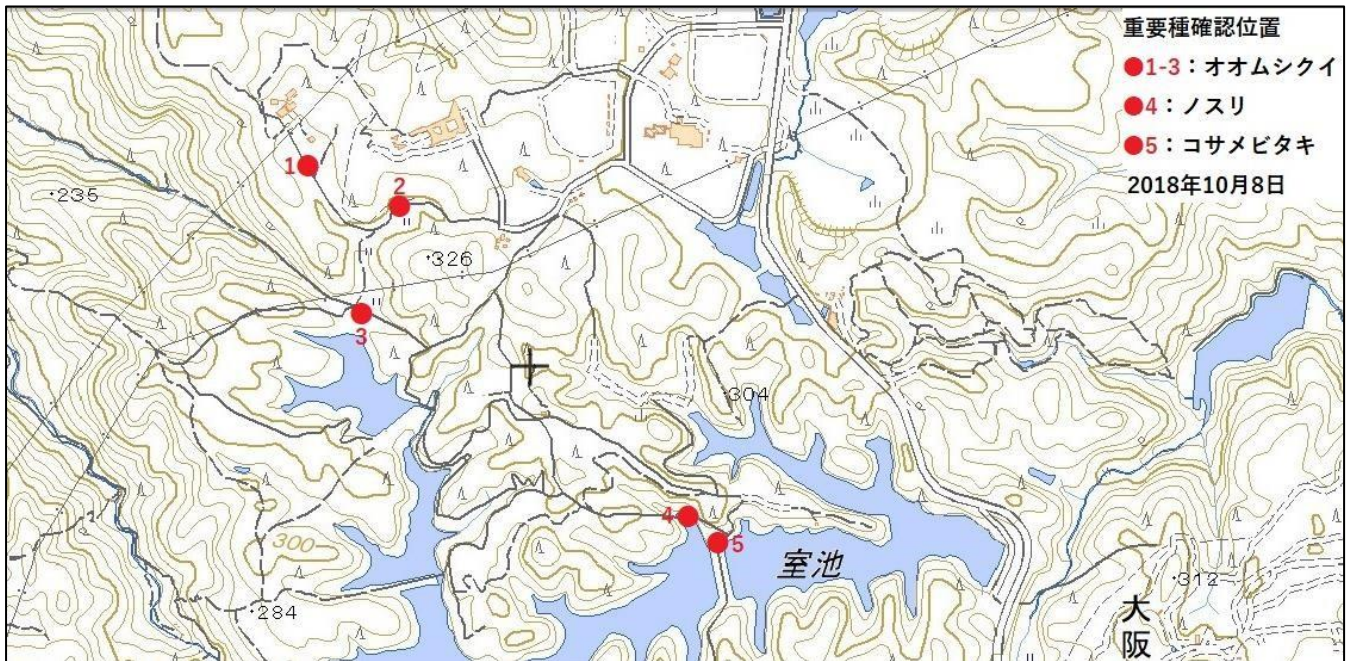


図 7-1(1) 重要種確認位置図(秋季)



図 7-1(2) 重要種確認位置図(冬季) ④ 生息区分

現地調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 25 種、夏鳥 1 種、冬鳥 17 種、旅鳥 3 種であり、留鳥 53%、夏鳥 2%、冬鳥 35%、旅鳥 6%と、一年を通してみられる種がほぼ半分を占める割合を示した（表 7-2、図 7-2）。生息区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

なお、旅鳥(一部夏鳥)とされているコサメビタキについては、旅鳥として分類した。また、秋冬の調査で夏鳥が確認されているが、それはキビタキ 1 種であり、秋季調査において確認された渡り途中の個体である。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	25 種	53%
夏鳥	1 種	2%
冬鳥	17 種	35%
旅鳥	3 種	6%
外来種	2 種	4%

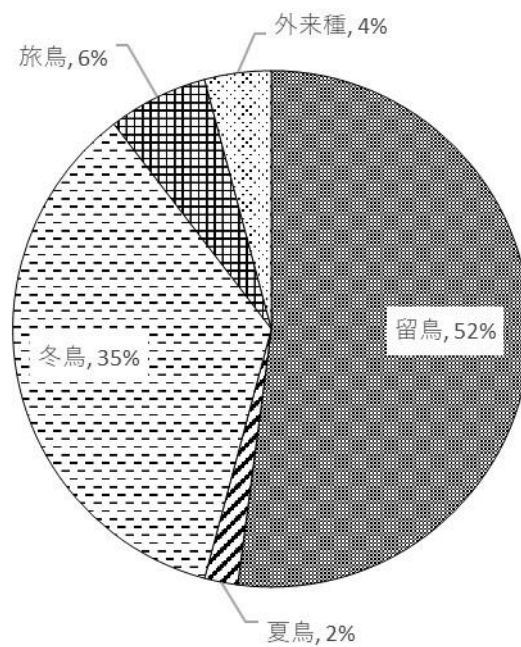


図 7-2 現地調査 生息区分の内訳

⑤ 密度

現地調査で確認された種の生息密度についてまとめたものを表 7-5 に示す。

1ha あたりの個体数は、ルート 1、ルート 2 毎に確認された個体数を、各ルートの面積（距離×幅 50m）で除して算出した。ルート 1 の面積は 8.32ha、ルート 2 の面積は 9.835ha、全体とは、ルート 1 とルート 2 を足したものであり、その面積は 18.155ha である。各ルートの個体数は表 7-3 に示す。

1ha あたり 1 個体以上の個体数となった種は、秋季調査（全体）ではヒヨドリ、メジロの 2 種、冬季調査（全体）では、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、アオジの 4 種であった。

表 7-5 個体数密度

(羽/1ha)

No.	目	科	学名	種名	秋季			冬季			
					ルート 1	ルート 2	全体	ルート 1	ルート 2	全体	
1	カモ	カモ	<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ					0.36	0.19	
2	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ		0.09	0.05				
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	0.10	0.09	0.09		0.09	0.05	
4	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ					0.09	0.05	
5	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		0.09	0.05				
6	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	0.49	0.18	0.33	0.69	0.27	0.47	
7			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	0.30		0.14	0.20	0.18	0.19	
8	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		0.09	0.05				
9		カラス	<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス		0.18	0.09		0.09	0.05	
10			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	0.10		0.05	0.10		0.05	
11			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ		0.09	0.05	0.69	0.27	0.47	
12			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	0.59	0.54	0.56	0.79	0.45	0.61	
13			<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	1.77		0.85	0.49	0.72	0.61	
14			<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	2.46	3.79	3.15	1.77	2.43	2.12	
15			<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	0.49	0.18	0.33	0.20	0.27	0.24	
16			<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ		0.27	0.14	1.58	0.27	0.89	
17			<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	0.49		0.24				
18			<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	2.66	0.27	1.41	1.77	1.17	1.46	
19			<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ					0.09	0.05	
20		ヒタキ		<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ				0.69	0.72	0.71
21				<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ					0.09	0.05
22				<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ				0.10	0.18	0.14
23				<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ					0.09	0.05
24			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	0.20		0.09				
25	セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	0.10	0.09	0.09				
26			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ					0.09	0.05	
27	アトリ		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ				0.98		0.47	
28			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ				1.08		0.52	
29			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ				0.69	0.27	0.47	
30			<i>Eophona personata</i>	イカル					0.36	0.19	
31	ホオジロ		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ				1.58	0.72	1.13	
32			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ				0.39	0.63	0.52	

2) 哺乳類

現地調査において確認された哺乳類を表 7-6 に示す。現地調査では 2 目 2 科 2 種の哺乳類を確認した。本調査では、重要種の確認はなかった。また、近年ニホンジカによる食害が問題視されているが、本調査ではニホンジカの確認はなく、調査地の林床にはササや低木の繁茂がみられた。

表 7-6 現地調査 哺乳類確認種

目	科	学名	種名
食肉目	イヌ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ
偶蹄目	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
2 目	2 科	2 種	

7-2 文献調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献の記載概況を表 7-7 に示す。

表 7-7 文献概要

文献 No.	文献概要
文献 1	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から、むろいけ園地において確認された種を抜粋
文献 2	大阪府で毎年行われているガンカモ調査の室池における 2008 年～2018 年の調査データ
文献 3	鳥類標識調査員による鳥類標識調査で室池にて確認された鳥類
文献 4	日本野鳥の会大阪支部主催の室池定例探鳥会データ
文献 5	日本鳥類学会 2015 年大会 ポスター発表資料

1) 鳥類

鳥類文献調査には、文献 1、文献 2、文献 3、文献 4 を使用した。

① 確認種

文献調査の結果、15 目 36 科 107 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-8 に示す。

文献別では、文献 1 が 98 種、文献 2 が 10 種、文献 3 が 38 種、文献 4 が 93 種確認された。

分類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会) に従った。なお、コジュケイ、カワラバト、ソウシチョウは外来種であり、第 7 版未掲載種であるが、参考として鳥類確認種表に掲載した。また、メボソムシクイ上種については、メボソムシクイ、オオムシクイの可能性があり、重複を避けるため 1 種として扱っていない。

表 7-8(1) 文献調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	文献 4	区分	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○				留鳥	
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○			○	留鳥	
3			<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○		○	○	外来種	
4	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	○	○		○	冬鳥	
5			<i>Anas strepera</i>	オカヨシガモ					○	冬鳥
6			<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ	○	○			○	冬鳥
7			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ	○	○			○	冬鳥
8			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ	○	○			○	冬鳥
9			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○	○			○	留鳥
10			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ	○	○			○	冬鳥
11			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ	○	○			○	冬鳥
12			<i>Anas crecca</i>	コガモ	○	○			○	冬鳥
13			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ	○	○			○	冬鳥
14			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ	○	○			○	冬鳥
15			<i>Aythya marila</i>	スズガモ	○				○	冬鳥
16	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○			○	留鳥	
17	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト	○				外来種	
18			<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○			○	留鳥	
19			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト					○	留鳥
20	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○			○	留鳥	
21	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○			○	留鳥	
22	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン	○			○	留鳥	
23			<i>Fulica atra</i>	オオバン	○			○	留鳥	
24	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ	○				旅鳥	
25			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○	○	夏鳥	
26			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○			○	夏鳥	
27	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ	○			○	冬鳥	
28			<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ	○				冬鳥	
29			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ					○	留鳥
30	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ				○	留鳥	
31		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○			○	夏鳥	
32			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○			○	留鳥	
33			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○			○	冬鳥	
34			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○			○	留鳥	
35			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○			○	夏鳥	
36			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○			○	冬鳥	
37	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○		○	○	留鳥	
38	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○		○	○	留鳥	
39	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○		○	○	留鳥	
40			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○			○	冬鳥	
41			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		○	○	留鳥	
42	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ				○	留鳥	
43			<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ	○			○	旅鳥	
44			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○			○	留鳥	
45	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○			○	夏鳥	
46		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		○	○	夏鳥	
47		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		○	○	留鳥	
48		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○				留鳥	
49			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○			○	留鳥	
50			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○			○	留鳥	
51		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ	○			○	冬鳥	
52		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○		○	○	留鳥	
53			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○			○	留鳥	
54			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○		○	○	留鳥	

表 7-8(2) 文献調査 鳥類確認種

No.	目	科	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	文献 4	区分	
55	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○		○	○	外来種	
56		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ				○	旅鳥	
57			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○			○	夏鳥	
58			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○			○	夏鳥	
59			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○			○	夏鳥	
60		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○		○	○	留鳥	
61		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○		○	○	留鳥	
62			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○	○	夏鳥	
63		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○		○	○	留鳥	
64		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○			○	旅鳥	
65			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ	○		○	○	旅鳥	
66			<i>Phylloscopus sp.</i>	メボソムシクイ上種				○	—	
67			<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ	○		○		旅鳥	
68			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○	○	夏鳥	
69		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○		○	○	留鳥	
70		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○			○	留鳥	
71		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○			○	留鳥	
72		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○		○	○	冬鳥(一部留鳥)	
73			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○				夏鳥	
74			<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ	○				旅鳥	
75			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○		○	○	冬鳥	
76			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ	○		○	○	旅鳥(一部冬鳥)	
77			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○		○	○	冬鳥	
78			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ				○	旅鳥	
79			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ			○		旅鳥	
80			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ	○				旅鳥	
81			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリヒタキ	○		○	○	冬鳥	
82			<i>Phoenicurus aureoreus</i>	ジョウヒタキ	○		○	○	冬鳥	
83			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ				○	留鳥	
84			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾヒタキ	○			○	旅鳥	
85			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメヒタキ	○		○	○	旅鳥(一部夏鳥)	
86			<i>Ficedula narcissina</i>	キヒタキ	○		○	○	夏鳥	
87			<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ	○				旅鳥	
88		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○	○	夏鳥		
89		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○		○	○	冬鳥	
90		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○			○	留鳥	
91		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○			○	留鳥	
92			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○			○	留鳥	
93			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○			○	留鳥	
94			<i>Anthus hodgsoni</i>	ピンズイ	○			○	冬鳥	
95		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○			○	冬鳥	
96			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○		○	○	留鳥	
97			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○		○	○	冬鳥	
98			<i>Carduelis flammea</i>	ベニヒワ	○				迷鳥	
99			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○		○	○	冬鳥	
100			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○			○	冬鳥	
101			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ	○		○	○	冬鳥	
102			<i>Eophona personata</i>	イカル	○			○	留鳥	
103		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○		○	○	留鳥	
104			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○			○	冬鳥	
105			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ	○		○	○	冬鳥	
106			<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ	○				旅鳥	
107			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○		○	○	冬鳥	
108			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○		○		冬鳥	
合計		15 目	36 科	107 種		98 種	10 種	38 種	93 種	—

② 重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は7目12科22種であった。確認された重要種を表7-9に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が1種、環境省レッドリスト記載種が11種、大阪府レッドリスト記載種が15種確認された。レッドリスト記載種22種の内17種が山野の鳥である。

表 7-9 文献調査 確認された重要種

No.	目	科	学名	種名	環境省 R L	大阪府 R L	種の保存法
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	DD		
2			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ	VU		
3	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ		NT	
4	チドリ	シギ	<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ		NT	
5			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ		NT	
6	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	NT		
7		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	NT	CR+EN	
8			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	NT		
9			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	NT	NT	
10			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	VU	CR+EN	
11			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		NT	
12	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ		NT	
13	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	VU		○
14	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	VU	VU	
15		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ		NT	
16		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	DD		
17			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT	
18		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ		NT	
19			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		VU	
20		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		NT	
21			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ		NT	
22			<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ		NT	
合計		7 目	12 科	22 種		11 種	15 種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 生息区分

文献調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 41 種、夏鳥 14 種、冬鳥 33 種、旅鳥 15 種であり、留鳥 39%、夏鳥 13%、冬鳥 33%、旅鳥 14%と、現地調査の結果と同様に、一年を通してみられる種が一番高い割合を示した（表 7-8、図 7-3）。なお、生息区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、本野鳥の会大阪支部）に従った。また、冬鳥（一部留鳥）、旅鳥（一部冬鳥）、旅鳥（一部夏鳥）とされているトラツグミ、アカハラ、コサメビタキについては、それぞれ冬鳥、旅鳥、旅鳥として分類した。

生息区分	確認種数	割合
留鳥	41 種	39%
夏鳥	14 種	13%
冬鳥	33 種	33%
旅鳥	15 種	14%
外来種	3 種	3%

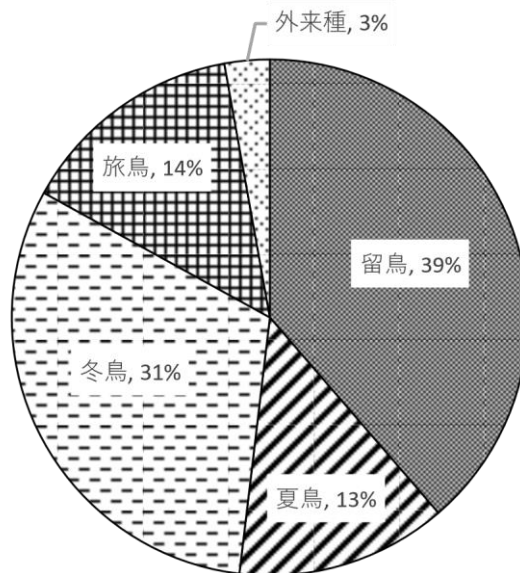


図 7-3 現地調査 生息区分の内訳

2) 哺乳類

哺乳類文献調査には文献 5 を使用した。

① 確認種

文献調査で確認された哺乳類を表 7-10 に示す。文献調査では、3 目 4 科 5 種の哺乳類を確認した。
重要種の確認はなかった。

表 7-10 文献調査 哺乳類確認種

No.	目	科	学名	種名
1	食虫目	モグラ	<i>Urotrichus talpoides</i>	ヒミズ
2			<i>Mogera sp.</i>	モグラ属の一種
3	齧歯目	リス	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス
4		ネズミ	<i>Muridae sp.</i>	ネズミ科の一種
5	兎目	ウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	ニホンノウサギ
合計	3 目	4 科	5 種	

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、15目36科109種の鳥類が確認され、そのうち23種が重要種であった（表8-1、表8-2）。
2. 現地調査の結果、11目25科48種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数と個体数の合計は、秋季が28種165個体、冬季が42種250個体であった。また、確認した鳥類の生息区分の内訳は、留鳥52%、夏鳥2%、冬鳥35%、旅鳥6%、外来種4%と、留鳥の割合がほぼ半数を占め、次いで冬鳥の割合が高い結果となった。

現地調査で確認された個体数密度において、1haあたり1個体以上の個体数となったのは秋季が18種中2種、冬季が26種中3種であった。
3. 文献調査の結果、15目36科107種の鳥類が確認され、そのうち22種が重要種であった。確認種の生息区分の内訳は、留鳥39%、夏鳥13%、冬鳥33%、旅鳥14%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種は、山野の鳥の割合が80%を占め、環境省レッドリスト記載種2種、大阪府レッドリスト記載種3種確認された。また、文献調査における重要種は、文献調査で77%の割合を占め、種の保存法記載種は1種、環境省レッドリスト記載種は11種、大阪府レッドリスト記載種は12種で、現地調査と文献調査を合わせて計23種が確認された。
5. 現地調査、文献調査において、5目6科7種の哺乳類が確認された。現地調査において、ニホンジカの確認はなく、近年問題視されている食害の被害はなかった。
6. このように、四條畷鳥獣保護区は山野に生息する鳥類の多く、特に一年中生息場所を変えない留鳥や冬期に滞在する冬鳥が多数生息することが確認されたことから、これらの鳥類の生息に適した環境であると考えられた。確認された鳥類の中には法によって保護されている種ハヤブサを筆頭に、オオタカやフクロウなど希少な鳥類が多数生息していることが確認された。四條畷鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として非常に貴重な地域であると言える。さらに域内に設置された施設の利用者が年間30万人を越えるなど、自然レクリエーションゾーンとしての利用や環境教育事業などに大きく貢献していることなどから、今後も鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてよりさらに良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1(1) 現地調査・文献調査の確認種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査		
					秋季	冬季			
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○		
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○		
3			<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	○		
4	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		○	○		
5			<i>Anas strepera</i>	オカヨシガモ			○		
6			<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ	○	○	○		
7			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ			○		
8			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ		○	○		
9			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ			○		
10			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ			○		
11			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ			○		
12			<i>Anas crecca</i>	コガモ	○		○		
13			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ		○	○		
14			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ	○	○	○		
15			<i>Aythya marila</i>	スズガモ			○		
16			カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○	○	○
17			ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト			○
18					<i>Sreptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○
19	<i>Treron sieboldii</i>	アオバト					○		
20	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	○		
21	ベリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	○		
22	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン			○		
23			<i>Fulica atra</i>	オオバン		○	○		
24	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○		
25			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス			○		
26			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○		
27	チドリ	シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ			○		
28			<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ			○		
29			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○		
30	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○		
31		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○		
32			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○		
33			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		○			
34			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○		
35			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○		
36			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○		
37			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	○		
38	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○		
39	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ		○	○		
40	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○		
41			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ			○		
42			<i>Picus avokera</i>	アオゲラ	○	○	○		
43	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ			○		
44			<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ			○		
45			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○		
46	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○		
47		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ			○		
48		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		○		
49		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス			○		
50			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	○		
51			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○		
52			ククイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	ククイタダキ			○	
53		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○		
54			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ			○		
55			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○		

表 8-1(2) 現地調査・文献調査の確認種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査
					秋季	冬季	
56	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○
57		ツバメ	<i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ			○
58			<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ			○
59			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○
60			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ			○
61			ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○
62		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○
63			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ			○
64		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○
65		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○		○
66			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ			○
67	<i>Phylloscopus sp.</i>		メボソムシクイ上種			○	
68	<i>Phylloscopus borealoides</i>		エゾムシクイ			○	
69	<i>Phylloscopus coronatus</i>		センダイムシクイ			○	
70	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	
71	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	○	
72	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>				○	
73	ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	
74		<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ			○	
75		<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ			○	
76		<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○	
77		<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ			○	
78		<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	○	
79		<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	
80		<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ			○	
81		<i>Luscinia cyane</i>	コルリ			○	
82		<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○	
83		<i>Phoenicurus aureoreus</i>	ジョウビタキ		○	○	
84		<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ	○			
85		<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			○	
86		<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ			○	
87		<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○	
88		<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		○	
89		<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ			○	
90			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ			○
91	イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○	
92	スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ		○	○	
93	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○	
94		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○	
95		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ		○	○	
96		<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ			○	
97	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ			○	
98		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ		○	○	
99		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		○	○	
100		<i>Carduelis flammea</i>	ベニヒワ			○	
101		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	○	
102		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	○	
103		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ		○	○	
104		<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	○	
105		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	○
106			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○
107	<i>Emberiza elegans</i>		ミヤマホオジロ			○	
108	<i>Emberiza sulphurata</i>		ノジコ			○	
109	<i>Emberiza spodocephala</i>		アオジ		○	○	
110	<i>Emberiza variabilis</i>		クロジ		○	○	
合計	15 目	36 科	109 種	28 種	42 種	107 種	

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目	科	学名	種名	現地調査		文献調査	環境省 R L	大阪府 R L	種の保存法
					秋季	冬季				
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		○	○	DD		
2			<i>Anas formosa</i>	トモエガモ			○	VU		
3	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○		NT	
4	チドリ	シギ	<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ			○		NT	
5			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○		NT	
6	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○	NT		
7		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○	NT	CR+EN	
8			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		○			VU	
9			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	NT		
10			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	NT	NT	
11			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○	VU	CR+EN	
12			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○	○		NT
13	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○		NT	
14	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	VU		○
15	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○	VU	VU	
16		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○		NT	
17		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○		○	DD		
18			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			○		NT	
19		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○		NT	
20			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○		VU	
21		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○		NT	
22			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○		NT	
23			<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ			○	NT		
合計		7 目	12 科	23 種		3 種	3 種	22 種	11 種	16 種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2017」(2017 年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014 年, 大阪府)
3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 国内希少野生動植物種」(環境省)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会)
6. 「四條畷市環境基本計画」(四條畷市都市整備部生活環境課, 2017 年 3 月)
7. 「なわての環境 ー平成 28 年版ー」(四條畷市都市整備部生活環境課, 2017 年 3 月)
8. 「大阪府指定四條畷鳥獣保護区 指定計画書」(大阪府, 2009 年 6 月) 9. 「事業報告書」(一般財団法人大阪府みどり公社, 2018 年 3 月 31 日)
10. 「平成 25 年度 特定非営利法人ナック事業報告書」(特定非営利法人ナック, 2013 年度)